# **2019 AUTOBACS SUPER GT Report** SUGO GT 300km RACE

第7戦 スポーツランド SUGO

### **ZENT CERUMO LC500**

### #38 立川祐路/石浦宏明

◆9月22日(日) RACE 決勝結果 11位

好感触を得ていながらも、予選ではま さかの11番手というポジションとなっ てしまった ZENT CERUMO LC500。 しかし、チャンピオン争いに残るために はしっかりと結果を残さなければなら ない。LEXUS TEAM ZENT CERUMO は SUPER GT 第7戦スポーツランド SUGOの決勝日を迎えた。



荒れたレースこそ順位挽回のチャンスがあるが、事前には9月22日(日)は 午前中から雨が降る予報だったものの、なかなか雨は降ってこない。チームは いつでもウエットレースに対応できるように準備を整えていたが、昼前のドラ イバーアピアランス、そして午後1時25分からの20分間のウォームアップ走 行も曇り空の下で行われていった。



しかし、グリッドに向け ZENT CERUMO LC500 がエンジンを始動したその瞬間、スポ ーツランド SUGO に雨が舞いはじめた。すぐ に路面を濡らすものではないが、細かい雨粒が グリッドの ZENT CERUMO LC500 にもつき はじめる。ただ、レーダーには雨雲が周辺には































ない。ウエットタイヤに交換するべきか、スリックタイヤのままスタートする べきか……。グリッド上での作業禁止となる午後1時55分まで村田卓児エンジ ニアは悩みに悩んだ。

周囲のグリッドでの動きなども見ながら、最終的に村田エンジニアが下した 判断はスリックタイヤでのスタートだ。雨雲がなく、雨自体も小康状態だった こと、さらにセーフティカースタートとなり、路面を乾かせる機会があったこ となど、その時点での判断は妥当と言えた。一方でグリッドでは多くのマシン がウエットタイヤを装着しているが、彼らと同じタイヤでは、追い上げて最終 戦に繋げることもできなくなってしまう。午後2時、立川祐路がステアリング を握り、ZENT CERUMO LC500 の挑戦が始まった。

ところがセーフティカーランの開始直 前、雨脚が強くなってきてしまう。路面は 少しずつ黒く光りはじめた。コクピットの 立川も、コントロールの厳しさを無線で伝 える。路面は乾かないどころか濡れつつあ るなか、3周目にセーフティカーが退去し、 戦いが始まった。



スリックタイヤを履く立川は濡れた路面で奮闘するも、いかんせんどうにも しようがないコンディションだ。GT500 クラスのなかでは最下位にはなってい ないが、ウエットタイヤを履く GT300 クラスの上位にもオーバーテイクされて しまう。しかも 8 周目、 3 コーナーで ZENT CERUMO LC500 はまさかのコー スアウトを喫してしまった。立川をもってしても、スリックタイヤで走るのは 限界のコンディションだったのだ。



LEXUS TEAM ZENT CERUMO は仕方なく立 川をピットに呼び戻し、ウエットタイヤに交換。ふ たたびコースへと送り出したが、GT500 クラス最 下位、そして総合でも9周目には最下位となってし まった。限りなく厳しい状況だが、立川はふたたび































ZENT CERUMO LC500 のアクセルを踏み込んだ。

幸い、ウエットコンディションのなかでの ZENT CERUMO LC500 のフィー リングは良く、少しずつポジションを回復していった。そして迎えた38周目、 そろそろピットインを考えていた LEXUS TEAM ZENT CERUMO のピットの モニターには、2 コーナーでグラベルストップした車両の映像が映し出される。

このスポーツランド SUGO では、コースア ウト車両が出た場合、処理のために重機が出る ことが多い。イコール、セーフティカー導入の 可能性があった。チームはすぐさま立川を呼び 戻し、石浦宏明に交代。チームの予感は的中し セーフティカーが出たため、このタイミングは 最適なものとなった。



ステアリングを引き継いだ石浦は、強さを増す雨のなかで追い上げを開始す る。ZENT CERUMO LC500 のフィーリングは変わらず良好で、トップ以上の ペースでひとつずつ順位を上げていく。40周目には12番手、58周目には11 番手にポジションを上げた。ポイント圏内はあとひとつだ。

しかし、追い上げ虚しくチェッカーを迎え、ZENT CERUMO LC500 は2周 遅れの 11 位でチェッカーを受けることになった。立川祐路/石浦宏明のふたり はこのラウンドで無得点に終わった結果、ランキング首位から 31.5 ポイント離 されることになり、2019年のチャンピオンの可能性はなくなってしまった。と は言え、最後はしっかりと勝って2019年を締めくくりたい。チームはふたたび 気持ちをひとつにし、最終戦ツインリンクもてぎに臨む。

#### ドライバー/立川祐路

「スタートのタイヤ選択がすべてになってしまいましたね。ス リックタイヤは結果的に厳しいものになってしまいました。そ れがレースには大きく響いてしまったので、もったいなかった ですね。ウエットコンディションのなかでのフィーリングも良

































かったですし、ピットインのタイミングの判断も良かったです。それだけにスタートが悔やまれますねし

#### ドライバー/石浦宏明

「ドライバー交代のタイミングはとても良く、チーム全員が動けたことはいい判断でした。自分に交代した時点で、トップからは周回差もあったので難しいレースとなりましたが、なるべく前にいこうと頑張っていきました。ップ争いを抜くのは慎重になりながらも、ミスをしないよう可能な限りいいペースで走



れたと思っています。今日のレースはスタート時の選択で分かれることになりましたが、我々はチャンピオンシップのことを考えてもトライをした結果だと思います。今回は敗れましたが、最終戦は勝って終われるようにしたいと思っています」

#### 立川祐路総監督

「今回はスリックタイヤでスタートしたことがすべてになってしまいました。 チームとしては判断ミスになってしまったと思います。今季は前半戦でいい戦いをすることができましたが、中盤戦以降いいレースができていません。最終戦のツインリンクもてぎでは、勝って今シーズンを締めくくりたいと思っています」

#### 村田淳一監督

「今回は後方グリッドからのスタートだったこともあり、雨が止む方向であると判断しスリックタイヤでスタートしました。結果的にそれが裏目に出てしまい、タイヤ交換をせざるを得ませんでした。その後のペースは上位陣と比べても遜色がなかったので、一層悔しいところです。結果的には下位に沈みましたが、レース途中はいい判断もできたので、今回得たもの、失ったことをしっかりと学びながら、最終戦もてぎで有終の美を飾り、今年いちばんのレースで来季に繋げたいと思っています」





























































#### 決勝結果表

Rank	Car No.	CarName	Laps	BestLapTime
1	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	81	1'21.785
2	64	Modulo Epson NSX-GT	81	1'21.745
3	23	MOTUL AUTECH GT-R	81	1'21.872
4	37	KeePer TOM'S LC500	81	1'19.993
5	17	KEIHIN NSX-GT	80	1'21.580
6	6	WAKO'S 4CR LC500	80	1'21.237
7	39	DENSO KOBELCO SARD LC500	80	1'22.664
8	1	RAYBRIG NSX-GT	80	1'19.999
9	16	MOTUL MUGEN NSX-GT	80	1'23.253
10	36	au TOM'S LC500	80	1'20.989
11	38	ZENT CERUMO LC500	79	1'21.782
12	8	ARTA NSX-GT	79	1'22.155
13	19	WedsSport ADVAN LC500	78	1'23.479
14	12	カルソニック IMPUL GT-R	76	1'21.658
15	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R	76	1'22.969































